

## スズメノカタビラ

スズメノカタビラ

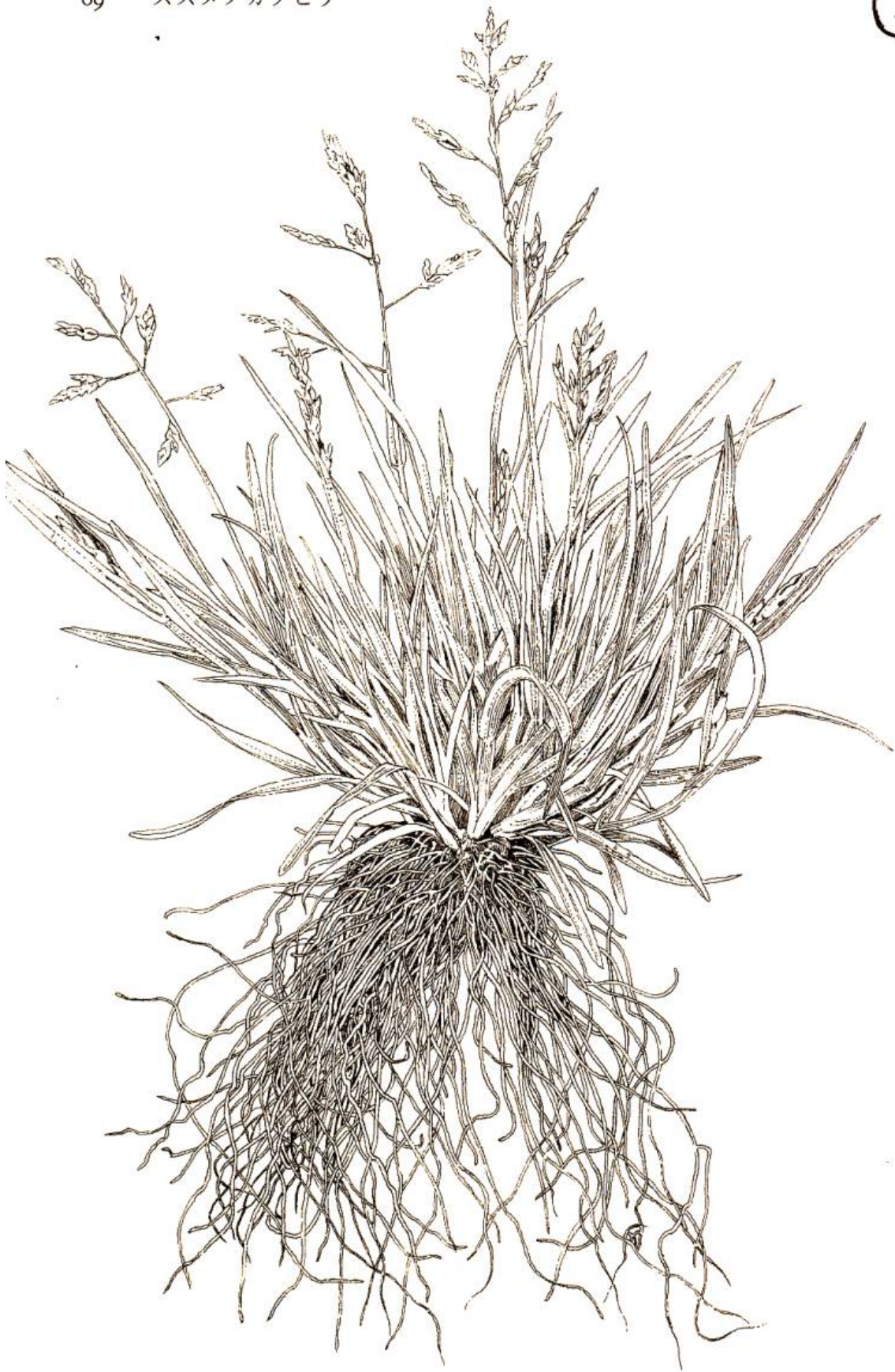
イネ科

## 国際派雑草の成功の秘訣

スズメノカタビラは「雀の帷子」である。現代では帷子がどんなものか知る人は少ないだろう。忍者の鎖かたびらを思い出す方もいるかもしれない。まさか雀の忍者軍団でもないだろう。ところが、これに対してスズメノテツポウという雑草もある。こちらは雀の鉄砲隊といったところか。しかもこの忍者軍団と鉄砲隊は、春の田んぼの覇権をめぐって激しく対立している。

春の田んぼをよく見ると、スズメノカタビラが一面に生えている田んぼと、それに対してスズメノテツポウが一面に生えている田んぼとに大別できるのだ。まさに天下分け目のいくさである。関ヶ原の戦いでどちらに味方するか山の上で思案していた小早川軍さながらに、畦道から戦況を眺めているのは槍部隊のスズメノヤリである。春の田んぼにこんな雀の合戦を夢想するのも楽しい。

実際には、帷子とは麻や生糸で作った裏地のない単衣ひとえの着物のことである。小穂の部分が、袷あわせの着物の片ひらに似ていることからそう名づけられた。この古風なイメージも



手伝ってスズメノカタビラは日本に古くからあるかのような顔をしてはびこっているが、実は北米原産のれっきとした外来雑草である。

スズメノカタビラは、道端や畑、田んぼ、公園など、ありとあらゆる場所に見られるごくありふれた雑草である。しかし、スズメノカタビラが活躍しているのは日本ばかりではない。世界狭しと各国を駆けめぐり仕事をする人をコスモポリタン（国際人）と呼ぶが、雑草でも世界中あらゆる場所に見られる種類は「コスモポリタン」と呼ばれている。スズメノカタビラは代表的なコスモポリタンの一つなのだ。海外旅行に出かければ、世界中でその姿を見ることができ、熱帯の国から極寒の地方まで、ありとあらゆる国で成功を収めているのである。まさに世界を舞台に大活躍である。

国際的に活躍するのに必要な能力は何か。堪能な語学力だろうか。キラリと光る国際的センスだろうか。自分の考えを貫き通す意志だろうか。悩めるジャパニーズ・ビジネスマンも少なくないだろう。参考までにコスモポリタン、スズメノカタビラの性格をあらわすエピソードを紹介しよう。

スズメノカタビラはゴルフ場の主要な雑草としても知られている。ゴルフ場には、グリーン、ティー、フェアウェイ、ラフなどの場所があり、それぞれ異なった芝の管理が行なわれている。それらの場所からスズメノカタビラを採ってきて育てると、驚くべき

ことに同じ条件で育てたにもかかわらず、生えていた場所によって穂をつける高さが違うのである。

グリーンから取ってきた株がもつとも低い位置に穂をつける。グリーンは芝刈りが頻繁に行なわれ、ゴルフ場のなかでも、極端に低く刈りそろえられている場所である。この位置より高く穂を出すと芝刈りのときに茎を刈られてしまう。だから、刈られる高さよりも低い位置に穂をつけるのである。

グリーンよりもやや高い場所で芝刈りが行なわれるティーから取ってきた株は、グリーンの株よりもやや高い場所で穂をつける。それより少し高くフェアウェイの個体、もつとも高いラフの個体も、それぞれ生えていた場所で行なわれる芝刈りの高さに合わせて穂をつけるのだ。それぞれの場所から取ってきて、芝刈りがない環境で育てた結果だから、その高さで穂をつける特性が身に染みこんでいるということになる。

頭を下げる人が多いサラリーマンの社会。しかし、グリーン上で頭を下げているのは接待ゴルフのサラリーマンだけではない。スズメノカタビラも同じなのである。世界的に活躍するコスモポリタンのスズメノカタビラ。意外にもその成功の秘訣は腰の低さにあったのである。

⑤

ミツバチをはじめとしたハナバチの仲間をパートナーに選ぶ花は多い。それらの花は、蜜のありかを巧みに隠して、ハナバチの力と知恵を試しているのだ。それらの花の多くは蜜のありかや操作部分に、ヒントになる目印をつけている。まるで記号のボタンを押すと餌が出てくるチンパンジーの学習機械のようなものだ。

ところで、シロツメクサは本来、三つ葉だが、ときどき四つ葉のものがある。これが幸せのシンボルとして有名な四つ葉のクローバーである。セント・パトリックがクローバーの三葉を愛・希望・信仰の三位一体にたとえ、四枚目を幸福と説いたことに由来する。四つ葉のクローバーを持っていると恋がかなうといわれているので、押し葉にして大切に持っている人もいるだろう。

この四つ葉のクローバーがあらわれる原因の一つは、生長点が傷つけられることにあるともいわれている。たしかに四つ葉のクローバーは道端や運動場など、よく踏まれるところで見つかりやすい。幸せのシンボルはお花畑のなかにはないのだ。三高にこだわる世の女性たちに、本当の幸せとは踏まれて育つことをシロツメクサは語りかけているのかもしれない。

スズメノカタビラ *Poa annua* (イネ科 ナガハグサ属)

スズメノカタビラは広く世界中に生育する一年生草本。古い時代に麦類の栽培とともに各地に帰化した植物とされている。秋に芽生え、春から初夏にかけて花を咲かせる。やや湿った場所によく見られるが、道端や荒れ地、果樹園、庭などに極普通に生育している。芝生などにもよく混生しており、ゴルフ場では雑草として嫌われることもある。葉は二つ折れになっており、断面はV字型であり、茎の根元は左右から扁平(ナガハグサ属の特徴の1つ)。

スズメノカタビラという和名のスズメは小さいことを意味しており、カタビラは裏地のない単衣(ひとえ)の着物を意味している。花をよく見ると、着物の襟のイメージにとれないことはない。麻の着物からスズメさんが顔を出しているイメージなのだろうか。



## スズメノカタビラ



スズメノカタビラ



スズメノカタビラ



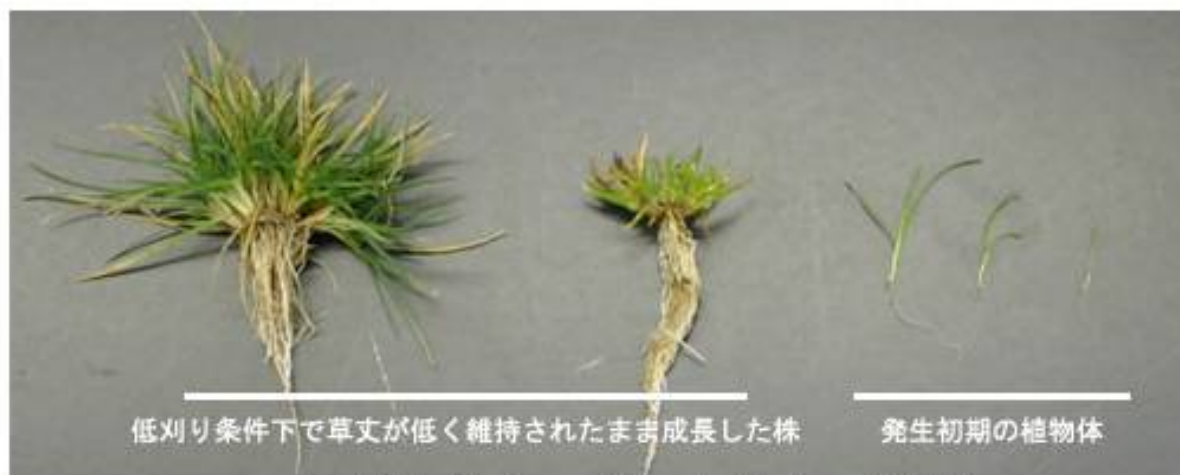
草種：	一年生イネ科	生育期間：	10～7月
分布：	北海道、本州、四国、九州、沖縄	繁殖：	種子
草丈：	5～30cm		
その他：	花粉症の原因植物		

## 生態

道ばたや人家の周囲、空き地、畑地などにいたるところに生育します。スズメノテッポウとともに春の畑地の代表的な強害草であり、繁殖力が盛んで、一面に群落をつくることがあります。根は浅いですが株になるので除去が難しい雑草です。茎は平たく、根もとで多く分かれて株になり、葉は細い線形で柔らかく、少し光沢があり、先は急にとがっています。2月頃から夏まで茎の先に淡緑色で卵形の花をつけます。暖地の日当たりのよい場所では冬の間でも花が咲くので、よく目立つ草です。

### スズメノカタビラ

また、低刈り条件下においても生育可能な上、3-4mmの穂でも完熟した種子を形成することができます。グリーンやティーなどの低刈り条件下では、刈り込みにより草丈は小さく維持されますが、生育期間に応じて葉齢、分げつは進展していきます



写真：低刈り条件下の株と発生初期の植物体

## スズメノカタビラ (*Poa annua* L.)

### ● 説明

代表的なイネ科の一年生雑草で、線形平滑で尖った葉を持ち、通常5-30cmほどの草丈に成長します。ゴルフ場に発生する雑草の中で最も重要な雑草の一つです。



### 特徴 [\[編集\]](#)

身近にごく普通に見られる雑草である。ごく小柄な草であり、高く伸びてもせいぜい20cm、小さいものは5cm位でも花をつけている。地下茎はなく、数本が株立ちになっている。全株黄緑色で柔らかい。茎は葉の基部の鞘に包まれ、葉は平らで短めの線形、真っすぐに出るが、先端がやや窪んで受けた形になる。時折り葉の縁が波打つようになる。

花序は円錐花序で、季節を問わずに出る。花序の枝が横に広がるのが特徴の一つ。小穂は卵形、左右から扁平で数個の花が含まれる。

名前の意味は雀の帷子であるが、その由来についてはよく分かっていない。



すずめのかたびら No.093



名	前	スズメノカタビラ(雀の帷子)
別	名	
科	名	イネ科
学	名	<i>Poa annua</i> L.
花	期	2月～11月
草	丈	10-30cm
生育	地	草地、道端、石垣
仲間		アオスズメノカタビラ
その他		花粉症アレルゲン
撮影	地	豊橋市今橋町
メ	モ	

帷子(かたびら)は夏に着るひとえの着物です。穂の形からかたびらのえり合わせを連想したものです。

小さいので雀の着るかたびらとなりました。道端や公園の木陰など、どこにでも普通に見ることのできる野草です。暖かい地方ではほとんど年中開花しています。よく似たものにアオスズメノカタビラがありますが、どちらかと言えばアオスズメノカタビラの方をよく見かけます。

下の画像はアオスズメノカタビラです。



**スズメノカタビラ<雀の帷子>** イネ科 ナガハグサ属 *Poa annua*

人家の庭等に普通に見られる一年草。高さ10cm程度。無毛で柔らかい茎が地表面を分けつして広がり、株を作る。春～秋に開花。

**分布** 日本全土

**花期** 4-10月

**撮影** 横浜市 98. 4. 19、長崎市 04. 2. 29

主に秋から春に発生し、生育とともに分けつが進み、株を形成して越冬します。その後、春から初夏(3-6月)にかけて開花して、結実後は一年生の草種であるため株は枯死します。また、条件が整えば春以降でも次々に発生が見られるとともに、小さな個体でも開花します。暖地では極寒気を除いてほぼ一年中花が見られます。



写真:越冬時のスズメノカタビラの様子



写真:スズメノカタビラ花弁



写真:低刈り条件下で冬季に出穂した個体  
(2007年2月撮影)

## スズメノカタビラ(雀の帷子)

### 越年草

北海道～九州の人家の周辺に見られる。茎は高さ10～25cmで、下部は節で折れ、葉鞘や葉は平たい。葉舌は白い膜質の半円径、長さ3～6mmが目立つ。花序は長さ4～8cmの円錐状で、小穂は長さ3～5mmの卵形で淡緑色の小花を3～5個つける。外花穎の基部の綿毛は少なく、ほとんど目立たない。花期は3～11月。

学名は、*Poa annua*

イネ科イチゴツナギ属

よく似たものにアオスズメノカタビラ(ツルスズメノカタビラ)やツクシスズメノカタビラがあるが判別は難しいので、ここでは分けていない。

店長208名の実態調査

N [nexway.co.jp](http://nexway.co.jp)

6.9%が示す実態とは？ 気になる結果は、無料ダウンロード！



2009年3月1日 八雲大田



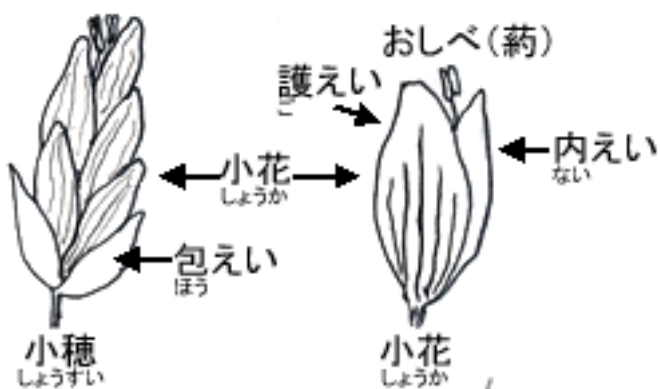
〈スズメノカタビラのなかま〉



穂



葉のつけね



小穂  
しょうすい

小花  
しょうか

スズメノカタビラ



写真117 スズメノカタビラ  
3月 灘区

# スズメカビラ

























2008年12月7日 上乃木

護穎の縁が不透明な白色





2004年3月28日 風土記の丘





2007年2月12日 佐草

